

清流の国ぎふ

2020 地歌舞伎

勢揃い公演 三月

安岐歌舞伎保存会 (中津川市)

中津川市阿木地区(旧阿木村)は、古くは安岐郷と呼ばれ江戸時代から地歌舞伎が盛んな地域でした。万延元年(一八六〇年)には村の中心部に芝居小屋「安岐座」が作られ、大正三年には「阿木公会堂」と名を変え、長年にわたり地歌舞伎などの催し物が盛大に行われていました。戦後も盛んに地歌舞伎公演が行われましたが、青年団などの活動が停滞すると、公演も下火となり、昭和五十七年には阿木公会堂も老朽化などを理由に取り壊されます。

その後、昭和六十年に阿木中学校体育館竣工記念として、久しぶりに地歌舞伎が上演されたのをきっかけに「安岐歌舞伎保存会」が結成されました。以後、子ども歌舞伎を中心に公演を行っていましたが、後継者不足もあり平成十二年の公演を最後に活動を休止しました。

このたびの「勢揃い公演」を契機に、地域の地歌舞伎愛好家が集まり、活動を再開することになりました。本公演を新たな出発点として、地歌舞伎を通じて地域の活性化につなげてまいります。



加子母歌舞伎保存会 (中津川市)

加子母の歌舞伎は、娯楽の少ない農山村の人々にとって、江戸の頃から唯一の楽しみでした。明治二十七年には芝居小屋「明治座」が村人によって創建され、公演が盛んに行われました。しかし、大正時代の興行法や戦争中の娯楽の厳しい取り締まりにより、明治座での歌舞伎公演はしばらく休演することとなりました。

その後、各地の農村舞台が再び脚光を浴び始めた昭和四十七年、明治座が岐阜県重要有形民俗文化財に指定されました。これを契機に、昭和四十八年には、加子母の歌舞伎を愛する地元有志が集まって、「加子母歌舞伎愛好会」として再興し、公演を再開することができました。昭和四十九年には、「加子母歌舞伎保存会」へと改称し、以降、毎年九月に明治座で定期公演を開催しています。

この間、資金や担い手不足など幾度も存続の危機がありましたが、地域の方々に保存会の会員になっていただくなど、子どもから大人まで地域一丸となって乗り越えてきました。



新型コロナウイルス感染予防対策について 安心して参加いただくために、皆様のご協力をお願いします。

- ・発熱や風邪症状のある方は、参加をお控えください
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・マスク着用の厳守(マスク非着用の方はご入場できません)
- ・出演者への声援や歌唱、入り待ち、出待ちの禁止
- ・手指消毒及び検温の実施(37.5℃以上の方はご入場できません)
- ・公演中のおひねり、大向こうの禁止

※「岐阜県感染警戒QRシステム」の登録をお願いします。
ご登録をいただきますと、感染者が発生した場合、同じ日に来訪された方にメールでお知らせいたします。

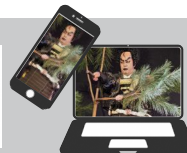
スタンプラリー再開



開催期間中、1公演ご鑑賞ごとにスタンプが1つたまります。スタンプ数に応じて素敵なグッズをプレゼント!
※木札を忘れずにお持ちください。

ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル

本公演の様子を収録し、後日配信します。



地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

清流の国ぎふ

2020 地歌舞伎

勢揃い公演 三月

2021年3月14日(日)

◆開演 14時00分 (開場13時00分)

◆会場 ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール

◆上演外題・出演

14時00分 (30分)

ことぶきしきさんばそう

寿式三番叟

安岐歌舞伎保存会 (中津川市)

14時50分 (80分)

えほんたいこうき

絵本太功記 十段目

尼ヶ崎閑居の場

加子母歌舞伎保存会 (中津川市)

◆終演 16時10分(予定) 演目・上演順は変更となる場合があります。



イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。

古典芸能解説者 葛西 聖司氏



